海のはくぶつかん

Vol.51 No.6
2021.11　274号

今月のいいね！

いい夫婦のクマノミ

水槽を泳ぐクマノミのペア

【名前】
クマノミ（スズキ目スズメダイ科）
【すむ場所】
千葉県以南。岩礁やサンゴ礁域にすむ。
【大きさ】
大きくなると全長 15cm ほどになる。
【当館で見られる場所】
くまのみ水族館

【特ちょう】
クマノミ類のなかで、唯一温帯まで生息する。特別な粘液を持ち、毒のあるサンゴイソギンチャクなどと共生する。伊豆半島などではダイビングの人気対象種。
【担当学芸員から一言】
当館のクマノミは、大きなメスと次に大きなオスがペアとなっています。相性のよいペアで産卵もよく見られます。11 月 22 日は「いい夫婦の日」です。是非ともクマノミ夫婦を見に来てください！！（K.Y）

Q&A

疑問にお答えします：鉱物って何？

Q. 鉱物って何ですか？
　地面や地層の中で作り出され、1 つの成分の結晶からできているもの（固体）のことです。成分が同じでも、繋がり方が異なると違う鉱物として扱われます。ダイヤモンドと石墨はともに炭素からできていますが、違う鉱物です。ダイヤモンドはとても高価な鉱物で、断面をみがきそろえてキレイに光を反射させることで、みなさんご存じの宝石となります。
　また、最近話題のレアメタルは、現代の社会において大変重要な鉱物資源で、スマートフォンや自動車部品などに使用され、人々の生活を豊かにしています。（S.T）

展示中の鉱物

東海大学海洋学部博物館　〒424-8620 静岡県静岡市清水区三保 2389

あれこれ　ヒレジャコガイに寄生する巻貝

ヒレジャコガイ

シャコガイヤドリイトカケギリの仲間

2021 年８月、当館にヒレジャコガイが搬入されました。ヒレジャコガイは、貝殻に魚のヒレのような突起を持つ二枚貝の仲間で、当館では「きらきら☆ラグーン」の水槽で飼育・展示しています。貝殻から外套膜（がいとうまく）と呼ばれる柔らかい膜を広げ、その中にすむ褐虫藻と呼ばれる藻類が作る栄養分を利用して生きています。

そんなヒレジャコガイですが、数日たっても広がるはずの外套膜があまり開いてきません。すると、先輩が「寄生貝がついている。」と教えてくださいました。改めて観察すると、大きさ 5mm にも満たない小さな白い巻き貝が、ヒレジャコガイの貝殻のすき間に大量についているではありませんか。調べてみると、小さな貝の正体は「シャコガイヤドリイトカケギリの仲間」であることが分かりました。この長い名前の貝は、シャコガイの仲間の外套膜に取り付いて、体液を吸って生活しています。ただ、大量に寄生され体液を吸われたシャコガイは弱ってしまい、死んでしまうこともあります。見つけた場合はすぐに取り除くことが大切で、今回も短時間淡水に漬けたり、歯ブラシでこすり落としたりしたところ、少し外套膜の広がりが良くなりました。

今後も状態良くヒレジャコガイを展示できるように、寄生貝の状況をしっかりと観察してきれいなシャコガイの姿をみなさんに見ていただきたいと思います。（S.A）

コラム　いろいろな「29」

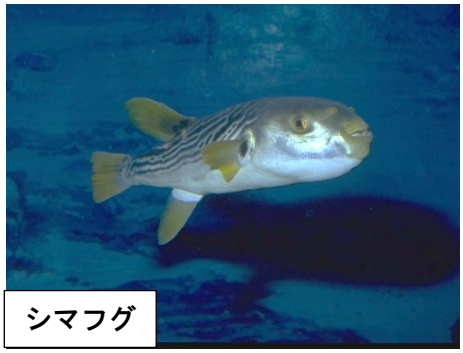
2021 年も残すところあと２か月となりました。外の景色も日に日に秋が深まり、寒くなってきました。11 月というと、11 の語呂にちなみ「いい〇〇の日」という記念日が数多く制定されています。そこで、何か魚に関する記念日はないかと探していたところ、11 月 29 日は「いいフグの日」であることが分かりました。ちなみに、このいいフグの日の「フグ」はトラフグのことで、その美味しさをより多くの人に知ってもらうことを目的に制定されたそうです。トラフグといえば高級魚としても有名で、皆さんもよくご存じであるため、今回はあまりスポットのあたることのない、他の種類のフグについて紹介したいと思います。

●モヨウフグ：体長 8cm 以上になる大型のフグで、茨城県以南の暖かい海にすんでいます。フグの仲間はヒトになれる種類も多く頭の良い魚ですが、その中でも本種はとても人なつっこく、水槽近くに人影が見えると、こちらを向いて口をパクパクさせて餌をねだってきます。

●シマフグ：体長 50cm ほどになるフグで、その名の通り、きれいなしま模様をしています。魚の中では泳ぎの遅いフグの仲間ですが、本種はその中でもよく泳ぎまわるフグで、いつも水槽の中をぐるぐると元気に泳ぎまわっています。

当館では、他にもフグの仲間を展示しています。ぜひこの機会に、水族館でフグを観察してみてはいかがでしょうか。（Y.I）

モヨウフグ



シマフグ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。